

家庭で **備える** 3つのポイント

1

家庭の備えて命を守れ!

- ①まずはじめに家の耐震診断を受けよう
- ②つぎに家具の転倒防止を部屋ごとにやってみよう
- ③そして非常持ち出し品と備蓄品を分けて揃えよう

2

いざという時の心構えを持とう!

- ①いつでもどこでも災害が起こったら…を考える習慣をつけよう
- ②いつでもどこでも緊急情報が手に入るようにしよう
- ③いつでもどこでも避難する場所と経路を確認しよう

3

今すぐ家族防災会議を開こう!

- ①住んでいるところは安全かどうか調べて話し合おう
- ②家族の安否を確認する方法を決めて練習しておこう
- ③家から避難をする前にやっておくことを確認し合おう

備える 防災 減災 ガイド

~LIFE<命・生活> LOVE<愛>~

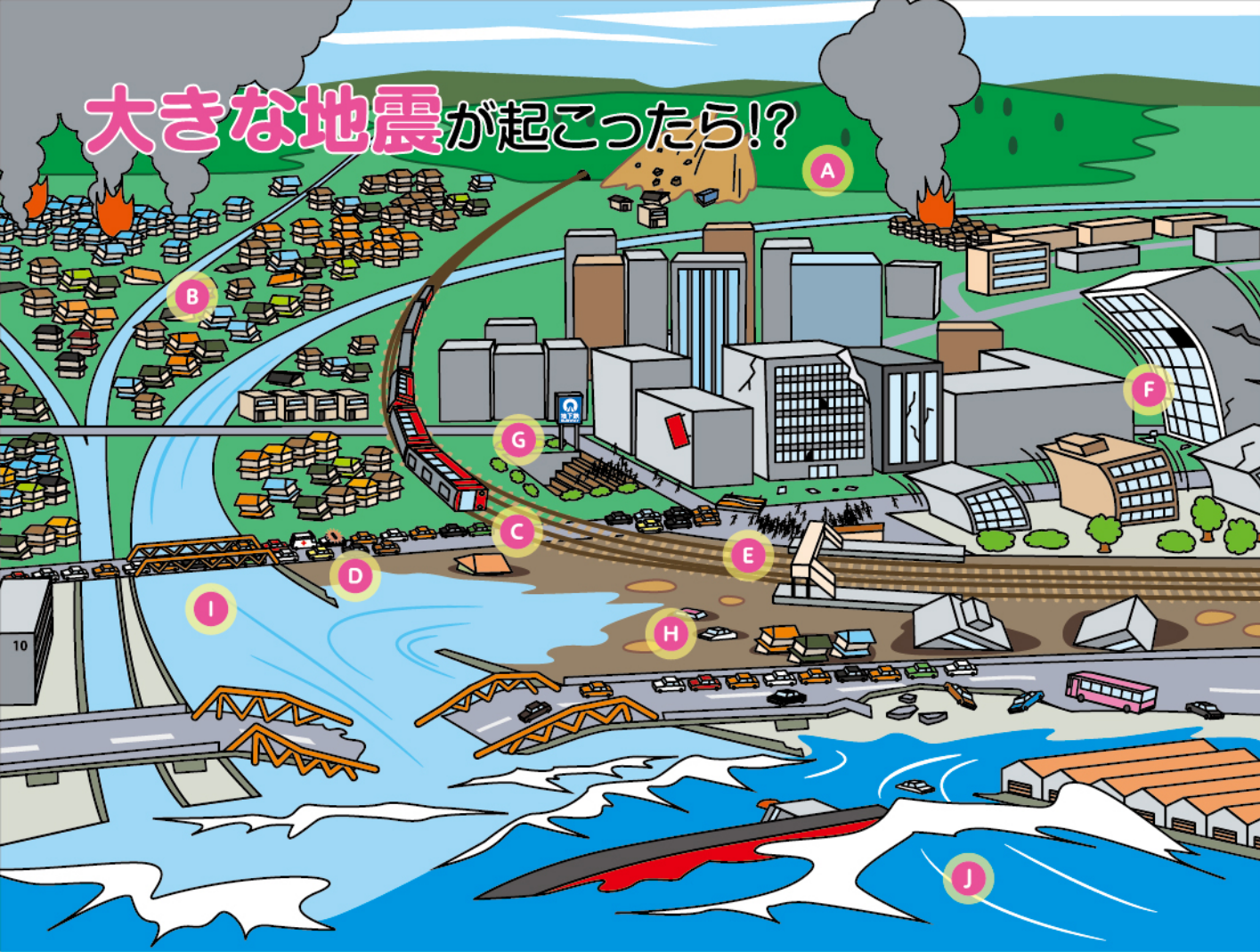
家庭編



あいち防災キャラクター
防災ナマズン

愛知県

大きな地震が起こったら!?



災害はいつ起こるかわかりません。

この「防災・減災備L(そなえる)ガイド～家庭編～」は、ご家庭でできる日ごろの備えについて、より理解が深まる解説・備L(そなえる)ポイントを加えた防災チェックガイドです。

災害が起きたとき、まず、自分や家族の命を守るため、つまり「自助」のために、ご家庭での備えをチェックし、できることから始めましょう。そして、周りの誰かを助けられる人になって下さい。あなたの命(LIFE)、愛(LOVE)する人との生活(LIFE)を守るために、合言葉は「できることから備L(そなえる)、今すぐに備L(そなえる)」です。



A 山の被害

山崩れが発生すると、住宅に土砂が流れ込みます。また、かけ崩れにより生活道路が寸断されます。

B 住宅街の被害

耐震性の低い建物は倒壊します。住宅密集地では複数箇所ですべて同時に火災が発生する恐れがあります。また、家屋の倒壊や家具の転倒により、多くの死者やケガ人が出ます。

C 鉄道の被害

地震の揺れによって線路が変形し、運行の再開までに時間がかかります。走行中の列車が脱線する可能性もあります。

D 道路の被害

高速道路が通行止となります。一般道は通行規制や通行止により渋滞が発生します。一般車両の渋滞が、消防車や救急車など緊急車両の救急・救助活動を妨げる原因となります。また、倒壊した建物が道路をふさぎます。

E 駅周辺の被害

鉄道やバスなどの公共交通機関が運休すると、多くの人が行き場をなくし、駅などに滞留します。中には自宅に戻ることができない帰宅困難者も発生します。

F 高層ビルの被害

高層ビルなどでは、地震の揺れと建物の揺れが共振すると、高層階で長い周期の揺れ(長周期地震動)が起こる場合があります。地上ではガラスや外壁などの落下に注意が必要です。

G 地下の被害

津波による浸水や、大勢の人が一斉に出口へ殺到しパニックが起きる可能性があります。

H 埋立地の被害

埋め立て地などの軟弱な地盤では、液状化現象により、建物や電柱が傾いたり、沈下する可能性があります。

I 川の被害

橋が崩落し、道路が寸断されます。堤防が沈下し浸水する恐れもあります。津波の遡上にも注意が必要です。

J 海の被害

地震が海底で起きると、津波が発生します。津波は繰り返し押し寄せて、最初に到達する波よりも、2番目、3番目の波が高くなる場合があります。

□ 地震だけではなく、巨大台風などの風水害にも注意しましょう。

ご家庭で、
以下の項目を定期的に
話し合しましょう。
そして備えの
足りないところは、
家族で協力して
準備しましょう。

1回目の話し合い 年 月 日
2回目の話し合い 年 月 日
3回目の話し合い 年 月 日

チェックした日を記入しましょう!

① ② ③

1 自分が住んでいる地域で起こった過去の災害や
土地の成り立ちを調べたことがありますか?

キーワード ハザードマップ 地域の特徴 地形や地盤
土地の伝承や成り立ち 地名の由来

詳しくは
6ページ

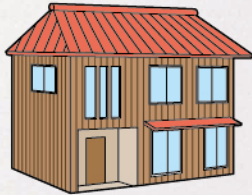


① ② ③

2 自宅は地域で想定されている最大震度に
耐えうる十分な耐震性がありますか?

キーワード 古い耐震基準 木造住宅 耐震診断
わが家の耐震性

詳しくは
7ページ

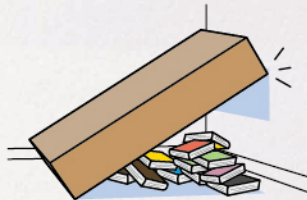


① ② ③

3 室内の家具転倒防止、家電・生活雑貨の
飛来落下防止対策をおこなっていますか?

キーワード 家具の固定 家具を減らす 家具を移動する
家具を置かない 壁の強度

詳しくは
8ページ



① ② ③

4 非常持ち出し品・自宅での避難生活用品
などの備蓄品を用意していますか?

キーワード 分けて揃える 消費期限
飲料水(1人1日3リットル) 家庭内流通備蓄

詳しくは
9ページ



① ② ③

5 地震が起こった時に、その場の状況に応じて
身を守る心構えがありますか?

キーワード 安全な行動 津波避難の3原則
津波でんてんこ

詳しくは
10ページ

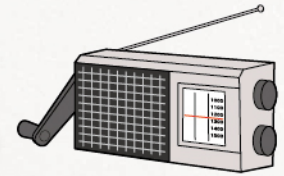


① ② ③

6 災害情報や、避難に関わる情報を
入手できる準備をしていますか?

キーワード 避難情報 携帯ラジオ ワンセグ 多重化
緊急速報メール (エリアメール)

詳しくは
12ページ



① ② ③

7 家族が離れているときの
安否確認の方法を決めていますか?

キーワード 災害用伝言ダイヤル171
災害用伝言板 家族防災会議

詳しくは
13ページ



① ② ③

8 避難の前に電気のブレーカーを落とす、
施錠するなど、なすべきことを
知っていますか?

キーワード 二次災害を防止 家の戸締まり 通電火災 初期消火

詳しくは
14ページ

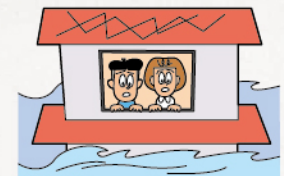


① ② ③

9 台風や地震など、災害事象別に
避難する場所とそこまでの安全な経路を
決めていますか?

キーワード 避難する場所 避難経路 垂直避難
津波避難ビル 福祉避難所

詳しくは
15ページ



① ② ③

10 災害から財産を守る手段として地震保険・
自然災害共済に加入していますか?

キーワード 経済的な備え 協力して運営 あわせて契約
割引制度

詳しくは
16ページ

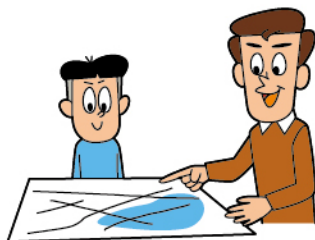
セット加入が
必要



確認ができた項目には
チェックをしましょう

1 自分が住んでいる地域で起こった過去の災害や土地の成り立ちを調べたことがありますか？

自分の住んでいる地域は、災害に対してどのような危険性があるか、その手がかりとなるのが「ハザードマップ」です。マップの種類も、洪水・土砂災害・地震・津波・高潮などお住まいの地域の特徴によって数種類あります。お住まいの市町村で作成していますが、配布方法はいろいろです。各市町村役場へお問い合わせ下さい。



ハザードマップってどんなもの!?



国土交通省のハザードマップポータルサイトから、市町村がWEBで公開しているハザードマップを閲覧できます。

■国土交通省 ハザードマップポータルサイト
<https://disaportal.gsi.go.jp/>

〈津波石碑から学ぶ〉

岩手県宮古市重茂(おもえ)には、東日本大震災で巨大津波が押し寄せましたが、過去の津波被害の教訓から、「此処より下に家を建てるな」と石碑に記した先祖の教えに従い、高い場所に暮らしていたことで無事だった集落があります。

備えるポイント!

地形や地盤は、家の耐震性に大きく影響します。特に埋立地や造成地は、地盤が軟弱であることが多いため、揺れが強く、液状化現象や土砂災害が発生しやすい場所です。土地の標高の違いによっても災害の起こり方は違います。建っている場所だけでなく、一戸建てと高層マンションなど、建物の構造によっても、揺れ方に大きな違いが出ます。

地名に「サンズイ」がつく漢字が使われていたり、水に関係する言葉が使われていたりする地域は、かつて川や池、沼であった可能性があります。地元のお年寄りなどにその土地の伝承や成り立ちを尋ねてみたり、古い地図や図書館の文献などで地域の災害の歴史や地名の由来を調べてみたりしましょう。過信は禁物ですが、自分たちの暮らす地域が安全なところかどうか、調べておくことも重要です。引越し先を探す場合は、安全・安心を第一に考えましょう。

2 自宅は地域で想定されている最大震度に耐えうる十分な耐震性がありますか？

阪神・淡路大震災では6,434人の尊い命が奪われました。このうち、地震による直接的な死者数は5,502人。その約9割の4,831人が住宅・建築物の倒壊などによるものでした。以降、全国的に住宅などの耐震化への取り組みが進められてきました。

無料耐震診断の対象：古い耐震基準によって、**昭和56年5月31日**までに着工された木造住宅（一戸建て、長屋、併用住宅、共同住宅で貸家を含む。空家は対象外）

昭和56年6月1日以降に着工された家であっても経年劣化しますので、定期的な点検（耐震診断含む）を受けることをお勧めします。

ご存じですか？ 県内市町村ではこんな補助をしています。

木造住宅の無料耐震診断



昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅の無料耐震診断を実施しています。

※市町村によっては、非木造住宅についても、耐震診断や耐震改修の補助をしています。詳しくはお住まいの市町村へお問い合わせください。

木造住宅耐震改修助成



無料耐震診断の結果、「倒壊の可能性がある」と診断された木造住宅を対象に耐震改修費の一部を補助します。補助金額や補助率は市町村により異なります。

お住まいの市町村問い合わせ先一覧（愛知県建築物地震対策推進協議会ホームページ）
<http://www.aichi-jishin.jp/before/mokuzo.html>

愛知県では、平成23年度に約85%となっている住宅の耐震化率を、平成32年までに95%とする「愛知県建築物耐震改修促進計画－あいち建築減災プラン2020－」を掲げ、地震に強いまちづくりに取り組みんでいます。ブロック塀のあるご家庭は、傾きやひび割れ、破損等がないか点検しましょう。

備えるポイント!



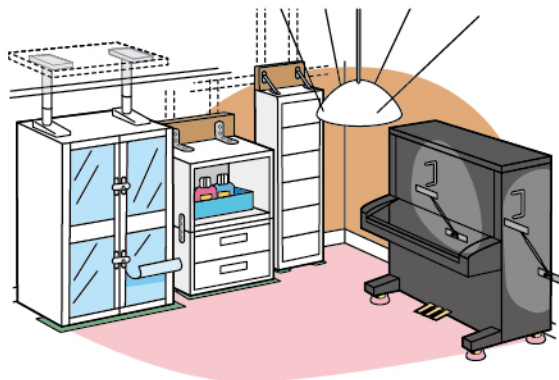
愛知県がホームページで公開している「愛知県防災学習システム」で、大地震が起こったときの、自宅の様子をシミュレーションできます。わが家の耐震性は大丈夫か、確認してみましょう。

<http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>
「建物倒壊シミュレータ」をクリック!

3 室内の家具転倒防止、家電・生活雑貨の飛来落下防止対策をおこなっていますか？

いざという時に、命を守り、避難の妨げにならないように、家具の配置を見直したうえで固定することが大切です。

家具の固定は、住居の耐震化に比べ、費用的にも安価で取り組みやすい有効な対策です。



まずは室内の家具が災害時に危険性を高める位置に設置されていないかを点検し、家具を減らす、移動するなどの対応をしましょう。

長い時間を過ごす部屋や寝室には、できるだけ家具を置かないように意識をしましょう。

固定する際には家具の重量と壁の強度を確かめて、それに見合う方法で固定しましょう。

賃貸住宅や集合住宅などで、壁に穴をあけられないという場合でも粘着ジェルタイプで壁を傷つけないで固定できる製品も市販されています。

ご自分で固定ができない高齢者の方などは、シルバー人材センターや業者に相談してみましょう。市町村によっては、高齢者などへの固定器具の購入費などの助成、シルバー人材センター・取り付け業者のあっせんを行っているところもあります。

市町村 家具等の転倒防止対策 担当窓口一覧

<http://www.pref.aichi.jp/bousai/kagutaisaku-madoguchi.pdf>

備えるポイント!

- ・避難路となる廊下や玄関をふさがない。
- ・窓や家具に使われているガラスは割れた時のために飛散防止対策をする。
- ・寝室にはできるだけ家具などを置かない。
- ・食器棚などの扉は、中身が飛び出さないように固定をする。
- ・キャスター付きなどの家具は車輪の移動防止措置をする。

ホームセンターなどで、さまざまな固定器具も売られています。それぞれの住環境に見合ったものを選びましょう。



4 非常持ち出し品・自宅での避難生活用品などの備蓄品を用意していますか？

「非常持ち出し品」と「備蓄品」を区別して用意しましょう。

避難するときに持ち出す必要最小限の「非常持ち出し品」と、自宅で生活するための「備蓄品」を分けて揃えることで、それぞれの中身を整理することができます。非常持ち出し品の重さの目安は男性で15kg程度、女性で10kg程度とされています。あまり欲張らず、避難に支障がない程度にしましょう。また食品など消費期限のあるもの、下着のサイズは定期的を確認しましょう。

●非常持ち出し品

ティッシュ、タオル、ボンチョ、除菌シート、マスク、携帯電話の充電器、印かん、現金(停電時に公衆電話で使用する10円、100円硬貨含む)、止血するもの、懐中電灯、ライター、ナイフ、下着、手袋、ラジオ、食品、ヘルメット、電池、水、健康保険証書コピー、めがね、コンタクト用品、生理用品など



家族構成に応じた備えも必要です

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ■乳幼児
離乳食、粉ミルク、加熱調理器具、消毒用品、紙おむつ、おしりふき | ■疾患のある方
主治医連絡先、持病薬メモ(処方箋等)、持病の薬 |
| ■高齢者
入れ歯、介護食、大人用紙おむつ | ■ペット
動物病院連絡先、リード、ケージ、ペット用食品、排泄用品 |

●備蓄品

ウォータータンク、カセットコンロ、カセットガス、調理用水、生活用水、飲料水(1人1日3リットル)、食料(アルファ化米、缶詰、レトルト食品、お菓子、栄養補助食品等)、缶切り、毛布、衣類、ろうそく、簡易トイレ、歯磨きシート、ウェットタオル、抗菌・消臭剤、救急セット、掃除用具(ほうき・ちりとり)

備えるポイント!

東日本大震災が起きるまで、食料と飲料水(1人1日3リットル)の確保は3日分が基本でした。近年の災害では4日目からは救援物資が届いていたからです。しかし東北の被災地では、2週間経っても救援物資はまったく足りない状況でした。流通ルートは寸断され、店頭からはたちまち品物はなくなり、新たな食料の調達は難しい状況でした。この教訓から、長期保存できる食品の買い置きを増やして、使った分だけ補充する「家庭内流通備蓄(ローリングストック)」を習慣化しましょう。

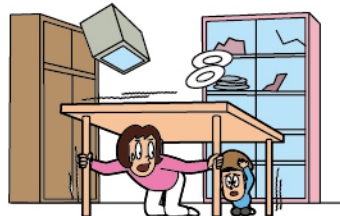


5 地震が起こった時に、その場の状況に応じて身を守る心構えがありますか？

どこで地震に遭遇しても、あせらず安全な行動ができるよう、家族で話し合しましょう。

ケース1 自宅で

廊下など家具が比較的少ない場所で身を守りましょう。近くに安全な場所がないときには、丈夫な机やテーブルの下にもぐり、脚をしっかりと握りましょう。身を隠す物がないところでは、頭を座布団などで保護して、身の安全を第一に考えましょう。それぞれの部屋に飛来落下や転倒するものがない安全な空間をつくりましょう。



ケース2 街中で

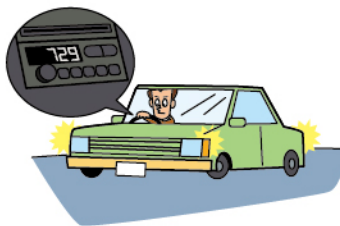
街中で地震にあつたら、上からの落下物やブロック塀、自動販売機などの転倒物に十分気をつけましょう、行き交う車にも注意が必要です。安全そうな建物の中に身を寄せましょう。

切れて垂れ下がった電線の下は通らず、近寄らないようにしましょう。地下街では、停電の際には非常照明が点灯するので落ち着きましょう。あわてて出口へ殺到するとパニックになる恐れがあります。地下街では60mごとに入出口が設置されています。冷静に係員の指示に従うか、混みあっていない最寄りの出口を探しましょう。



ケース3 車で

運転中、地震にあつたら、後ろの車にハザードランプで合図しながら、ゆっくり減速して、道路端に停車します。駐車スペースがあれば、そこに車を移動させ、できるだけ緊急車両が通行しやすいようにして下さい。そして、すぐに車を離れずにラジオなどで情報を集めましょう。車を離れるときには、エンジンキーは付けたままにして、車検証を携帯し窓を閉めロックはしないようにしましょう。連絡先のメモは残すようにしましょう。高速道路上では、他の車に注意して車を降り、非常口やICから避難しましょう。



ケース4 電車で

電車は震度によって一旦停止します。手すりやつり革につかまり、転ばないようにしましょう。避難する際、係員の指示があれば従い行動しましょう。ホームで地震にあつたら、転落しないようホームの中央に移動し、案内表示板などの落下物に注意して下さい。できるだけカバンなどで頭を守りながら、行動するようにしましょう。



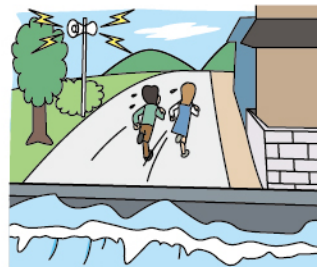
ケース5 山で

山で地震にあつたら、崖や狭い登山道から滑落しないようしゃがむか、木にしがみついて、揺れがおさまるまで待ちます。沢にいたら尾根に上がるのが安全でしょう。落ち着いたら、山崩れや落石に注意しながら道に迷わないように下山しましょう。



ケース6 海で

海や海岸付近で地震にあつたら、揺れの大きさに関わらず高いところに避難しましょう。特に、ゆっくりとゆ〜らゆ〜ら揺れる地震が発生したら、津波が起きることを強く意識してすぐに避難します。揺れを感じなくても津波が起きることもあります。海岸では防災無線が聞こえるところで遊ぶか、ラジオを携帯し災害情報を入手できるようにしましょう。出かける前に、いざというときに逃げられる場所を決めておきましょう。津波は繰り返し押し寄せます。自分だけで状況を判断せずに、警報が解除されるまで待ちましょう。



津波避難の3原則

- ① 想定にとらわれるな ハザードマップで「安全」とされた地域が危険になることもある。
- ② 最善をつくせ 「もう大丈夫だろう」と思い込まず、状況に応じて、さらに安全を目指すべき。
- ③ 率先避難者たれ いざという時は、まず自分から行動に移すべき。他の人に惑わされない。

東日本大震災では、この3原則を教えられてきた釜石市の小中学校14校の生徒約3,000人のほぼ全員が、自らの判断で周りに声をかけ避難をしました。その結果、多くの命が救われ「釜石の奇跡」とも呼ばれています。しかし生徒達は、教えられたことを普段から訓練し、それを実践したのですから、奇跡ではなく実績だといえます。これは、津波だけでなく防災・減災対策すべてにあてはまる大切な教訓です。家庭で、職場で、地域で自分がどう行動すべきかを考えておきましょう。



津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」より：気象庁

備えポイント!

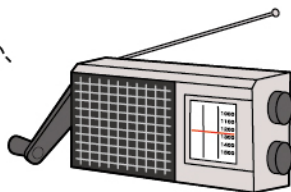
津波てんでんこ

津波のときは、「てんでばらばら」で逃げろという意味です。家族の安否が心配でも、相手はきっと逃げていると信じ、自分是一目散で逃げろ、そして一家全滅、共倒れになることを避け、命があればまた会える…。何度も津波被害に見舞われた三陸地方に伝わる防災・減災の知恵です。

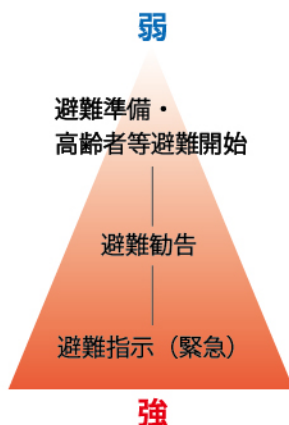
6 災害情報や、避難に関わる情報を入手できる準備をしていますか？

災害時の避難情報は、市町村の防災行政無線や広報車のほか、テレビ、ラジオなどで入手できます。

また停電しても困らないように、携帯ラジオやワンセグなど情報の入手先をあらかじめ多重化しておきましょう。



自治体が発信する避難情報の種類は、段階的に次の通りです



●避難準備・高齢者等避難開始

- ・いつでも避難ができるよう準備をしましょう。身の危険を感じる人は避難を開始しましょう。
- ・避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児をお連れの方等）は避難を開始しましょう。

●避難勧告

- ・避難場所へ避難をしましょう。
- ・地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難をしましょう。

●避難指示（緊急）

- ・まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難をしましょう。
- ・外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内より安全な場所に避難をしましょう。

※必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

備えポイント!



情報入手の新たな手段のひとつに緊急速報メール（エリアメール）があります。対応機種をお持ちであれば、いざというとき自治体からの災害・避難情報を無料で受信できるほか、気象庁からの緊急地震速報や津波警報、土砂災害警戒情報も配信されます。東日本大震災以降、住民への情報伝達手段の一つとして急速に普及し、多くの自治体で利用されています。ご自分の携帯電話が対応機種かどうかわからない場合は、お近くの携帯ショップに問い合わせましょう。

- docomo 緊急速報「エリアメール」対応機種
https://www.nttdocomo.co.jp/service/areamail/compatible_model/
- au 緊急速報メール対応機種
<https://www.au.com/mobile/anti-disaster/kinkyu-sokuho/enabled-device/>
- SoftBank 緊急速報メール対応機種
https://www.softbank.jp/mobile/service/urgent_news/models/

7 家族が離れているときの安否確認の方法を決めていますか？

大きな災害が起き、人々が一齐に電話やインターネットを使用すると、回線が込み合い、家の電話や携帯電話はつながりにくくなります。電話が繋がらなければ、命にかかわる救助の要請もできなくなります。緊急車両に道を譲る気持ちと同じように、なるべく電話の使用は控え、緊急時にサービスが提供される「災害用伝言ダイヤル171」や「災害用伝言板」の利用を心がけましょう。

●体験利用ができる期間

毎月1日と15日、正月三が日（1/1～1/3）、9月の防災週間、1月の防災とボランティア週間

災害用伝言ダイヤル171		携帯電話 災害用伝言板	
伝言の録音方法 171▶1▶(000)0000-0000▶ ガイダンスが流れます 被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を	伝言の再生方法 171▶2▶(000)0000-0000▶ ガイダンスが流れます 被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を	各社のトップメニューから「災害用伝言板」を聞く 伝言の録音方法「録音」を選択 伝言を入力する（最大100文字まで）	伝言の確認方法「確認」を選択 被災地の方の携帯電話番号を入力して伝言を見る
災害用ブロードバンド伝言板web171 https://www.web171.jp			

●災害用伝言ダイヤル171

地震などの災害が発生し、被災地の方の安否を気遣う通話が増加し、被災地への通話がつながりにくい状況になった場合に開始されるサービスです。

登録できる伝言は1件につき30秒以内で、登録できる件数は状況に応じて1～20件です。保存期間は災害用伝言ダイヤル（171）の運用期間終了まで（体験利用時は体験利用期間終了まで）です。

●災害用伝言板

震度6弱以上の地震等、大きな災害が発生すると開始されるサービスです。携帯電話やスマートフォンからご自身の安否情報を登録すると、インターネットを通じて全世界から内容を確認できます。

携帯各社とNTT東西が提供する災害用伝言板は会社を問わず、相互に登録情報が検索できます。また、携帯各社は、あらかじめ安否を知らせたいメールアドレスを登録しておくことで、登録情報が相手にメールで届くサービスを提供しています。

備えポイント!

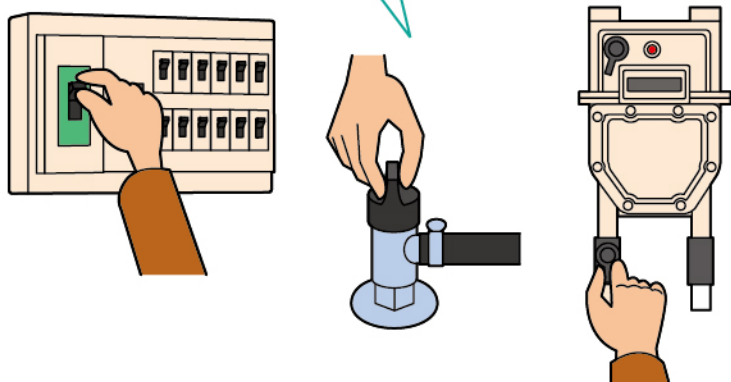
家族と電話連絡がつかなくても「安心できる」備えが大切です。災害用伝言ダイヤルや災害用伝言板は、上記のとおり体験利用ができます。使用手順を確認しておきましょう。また、保育園や学校と子供の引き取り方法について確認しておいたり、家族防災会議を開いて、家族の集合場所を災害別に事前に決めておきましょう。



8 避難の前に電気のブレーカーを落とす、施錠するなど、なすべきことを知っていますか？

避難するために家を空ける前に、二次災害を防止するためにすべきことを確認しておきましょう。

- 空き巣や、火災の延焼を防ぐため家の戸締まりを忘れずに！
- 家を出るときには、忘れずに、ガス・水道の元栓を閉める。
- 電気が復旧した時に、壊れたり倒れた電化製品に通電して火災が発生することを防ぐため、電気のブレーカーをOFFにする。(感震ブレーカーの取り付けも効果的)
- 探しに来た人に無事を伝えられるように、玄関に「全員無事です」といったメモを貼りましょう。



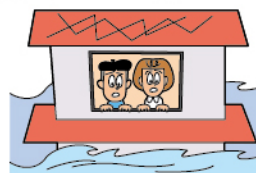
備えポイント!

万が一火災が発生した場合は、あわてずに、可能であれば避難経路を確認した上で初期消火をしましょう。
火が自分の身長と同じ高さを越えると、消火は難しくなると言われています。
天井に火が届いたら、無理をせずあきらめて避難をしましょう。



9 台風や地震など、災害事象別に避難する場所とそこまでの安全な経路を決めていますか？

避難する場所を確認し、そこまでのルートを家族で決めましょう。地震や風水害など災害の種類によって、避難する場所はいつも同じとは限りません。また、避難する場所は家族が別々の場所で被災した時の集合場所にもなります。避難経路を確認するために、家族みんなで実際に歩いてみましょう。途中、ブロック塀や自動販売機などの場所を地図にメモして、危険を予測しましょう。避難経路がふさがった場合の迂回路も確認しておきましょう。



また地震による被害は甚大ですが、一方で毎年、水害や土砂災害を引き起こす台風や集中豪雨などにも注意が必要です。避難の際、特に夜間や雨で視界の悪い状況では、柔軟な判断が求められます。足下の確認が難しく浸水の危険があるときは、自宅の2階以上や、近所にある高い建物に避難する「垂直避難」が有効です。

備えポイント!

避難する場所の利用用途は、災害の規模や種類によっても違ってきます。いざという時、家族で避難するための場所を確認しておきましょう。

● 指定緊急避難場所

市町村が、災害の種類に応じてその危険の及ばない場所・施設を指定します。必要に応じて指定緊急避難場所の中から一時避難場所や広域避難場所を選定します。

● 一時避難場所

危険を避けるため、ひとまず身を守るための場所。近所の広場や公園、空き地など。

● 広域避難場所

一時避難が危険となるような延焼火災が発生した場合に身の安全を確保するための場所。周辺に建物の少ない大規模な公園や競技場など。

● 津波避難ビル

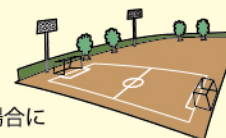
津波から避難するときに、近くに高台がない場合は一時的な避難場所となる「津波避難ビル」に逃げましょう。愛知県内でも、東日本大震災の後、津波避難ビルの整備・指定が進められています。

● 避難所

被災により自宅などで生活できない方を一定期間受け入れるための施設。地域への公的支援の拠点となる場所です。

● 福祉避難所

主に公的施設のほか、指定の民間福祉施設などです。要援護者や障がい者が必要な生活支援が受けられる体制を整備した避難所です。

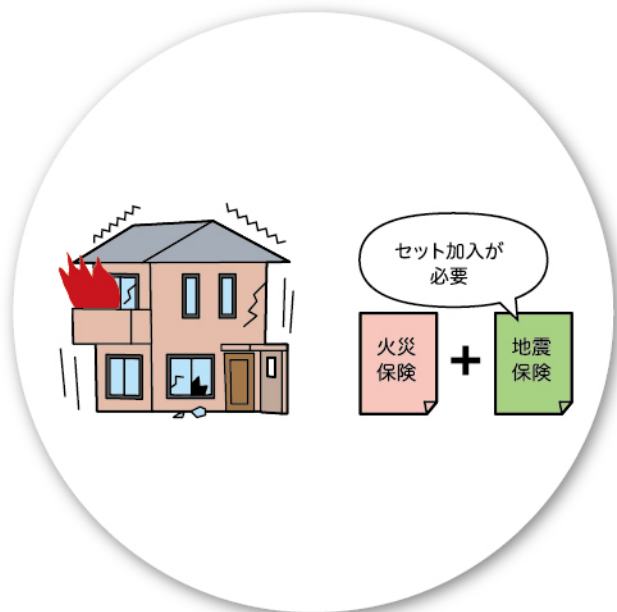


10 災害から財産を守る手段として 地震保険・自然災害共済に加入していますか？

避災害に対する経済的な備えとして、地震保険や自然災害共済への加入があります。

中でも地震保険は、地震による家屋の倒壊や火災、津波被害に対して保険金が支払われる制度で、国と民間の損害保険会社で協力して運営されています。

多くは、建物や家財を対象とする火災保険・共済にあわせて契約します。



割引制度として、「建築年割引」と「耐震等級割引」、「免震建築物割引」、「耐震診断割引」の4種類が設けられており、建築年または耐震性能により10%～50%の割引が適用されます（重複不可）。

詳しくは、各損害保険会社の相談窓口または代理店にご相談ください。

備えるポイント！

火災保険・共済では、地震を原因とする火災による損害や、地震により延焼、拡大した損害は原則として補償されません。

火災保険・共済の保険金額の30%～50%の範囲内で地震保険の保険金額を決めることが可能です。ただし、建物は5,000万円、家財は1,000万円が限度です。

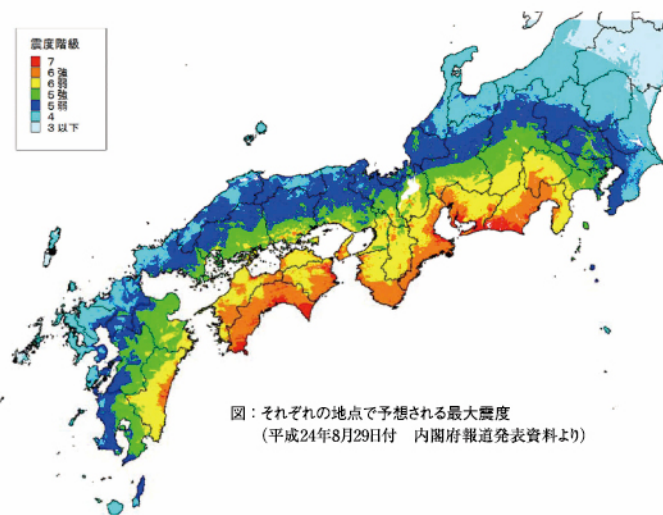
東日本大震災では75万件以上、1兆2,000億円を超える支払いがありました。

南海トラフの巨大地震

南海トラフの巨大地震は、駿河湾から日向灘までの広い範囲を震源として発生すると予想されています。

平成24年8月に公表された国の調査による愛知県の最大予想震度は6弱から7となっており、最悪のケースでは、建物の全壊棟数は388,000棟、死者は23,000人に上る大災害になると予想されています。

しかし、併せて事前に備えることで減災できることも示されました。災害を防ぐことはできませんが、被害を減らすことは可能です。



防災・減災備L(そなえる)ガイド～家庭編～

平成24年11月 発行／愛知県 平成29年3月 一部修正／愛知県 平成30年11月 一部修正／愛知県

○編集協力(五十音順、敬称略)

小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授

国崎 信江 危機管理教育研究所 代表

栗田 暢之 特定非営利活動法人レスキューストックヤード 代表理事

廣井 悠 名古屋大学 減災連携研究センター准教授

福和 伸夫 名古屋大学 減災連携研究センター長

■非常持ち出し品リスト

品名	点検日チェック		
<input type="checkbox"/> ティッシュ			
<input type="checkbox"/> タオル			
<input type="checkbox"/> ボンチョ			
<input type="checkbox"/> 除菌シート			
<input type="checkbox"/> マスク			
<input type="checkbox"/> 携帯電話の充電器			
<input type="checkbox"/> 印鑑			
<input type="checkbox"/> 現金 (停電時に公衆電話で使用する10円、100円 硬貨含む)			
<input type="checkbox"/> 止血するもの			
<input type="checkbox"/> 懐中電灯			
<input type="checkbox"/> ライター			
<input type="checkbox"/> ナイフ			
<input type="checkbox"/> 下着			
<input type="checkbox"/> 手袋			
<input type="checkbox"/> ラジオ			
<input type="checkbox"/> 食品			
<input type="checkbox"/> ヘルメット			
<input type="checkbox"/> 電池			
<input type="checkbox"/> 水			
<input type="checkbox"/> 健康保険証書コピー			
<input type="checkbox"/> めがね			
<input type="checkbox"/> コンタクト用品			
<input type="checkbox"/> 生理用品			

■乳幼児

品名	点検日チェック		
<input type="checkbox"/> 離乳食			
<input type="checkbox"/> 粉ミルク			
<input type="checkbox"/> 加熱調理器具			
<input type="checkbox"/> 消毒用品			
<input type="checkbox"/> 紙おむつ			
<input type="checkbox"/> おしりふき			

■高齢者

品名	点検日チェック		
<input type="checkbox"/> 入れ歯			
<input type="checkbox"/> 介護食			
<input type="checkbox"/> 大人用紙おむつ			

■疾患のある方

品名	点検日チェック		
<input type="checkbox"/> 主治医連絡先			
<input type="checkbox"/> 持病薬メモ(処方箋等)			
<input type="checkbox"/> 持病の薬			

■ペット

品名	点検日チェック		
<input type="checkbox"/> 動物病院連絡先			
<input type="checkbox"/> リード			
<input type="checkbox"/> ケージ			
<input type="checkbox"/> ペット用食品			
<input type="checkbox"/> 排泄用品			

■備蓄品リスト

品名	点検日チェック		
<input type="checkbox"/> ウォータータンク			
<input type="checkbox"/> カセットコンロ			
<input type="checkbox"/> カセットガス			
<input type="checkbox"/> 調理用水			
<input type="checkbox"/> 生活用水			
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日3リットル)			
<input type="checkbox"/> 食料 (アルファ化米、缶詰、レトルト食品、お菓子、 栄養補助食品等)			
<input type="checkbox"/> 缶切り			

品名	点検日チェック		
<input type="checkbox"/> 毛布			
<input type="checkbox"/> 衣類			
<input type="checkbox"/> ろうそく			
<input type="checkbox"/> 簡易トイレ			
<input type="checkbox"/> 歯磨きシート			
<input type="checkbox"/> ウェットタオル			
<input type="checkbox"/> 抗菌・消臭剤			
<input type="checkbox"/> 救急セット			
<input type="checkbox"/> 掃除用具(ほうき、ちりとら)			

家族の連絡先

氏名	生年月日	血液型	会社名・学校名	電話番号

わが家の避難する場所

地震のとき

水害のとき

避難のタイミング

気にかける人

地震のとき

水害のとき

家族の安否確認手段

■緊急時の連絡先

警察 ☎110	消防・救急車 ☎119	天気予報 ☎177	時報 ☎117	災害用 伝言ダイヤル ☎171
------------	----------------	--------------	------------	-----------------------